

フォトシティさがみはら

相模原市総合写真祭



TOPICS

わたしたちのために受賞者を選んでくれる

審査員して下さってるのって、だれ？

DOCUMENT! 記録!

EXPRESS! 表現!

MEMORY! 記憶!

市の図書館には伊藤先生の著書は9冊が所蔵されています。なかでもオスマはサントリー学芸賞を受賞した『ジオラマ論 博物館から南島へ』。写真が誕生した19世紀からCG・VRといった新たな映像が出現する21世紀までの歴史を、視覚技術の変遷という視点から辿った本です。私たちの生きて、呼吸している情報世界の成り立ちを客観的に知るための書籍としてぜひ一読ください。

市立図書館で読める伊藤先生の本『ジオラマ論』



20,21世紀の文化全体を旺盛に評論
東京藝術大学先端芸術表現科教授
1953年秋田市生まれ

いとう としはる

伊藤俊治氏



現在5人いらっしゃる審査員のうち初回よりずっとプロの部の審査をして下さっているのは伊藤俊治氏。1970年代半ば、ニューヨーク留学中にダイアン・アーバスの写真を見て、その内実の深さに強い関心を抱き、以降、写真の歴史や写真家の軌跡に魅了されたそうです。

フォトシティさがみはら写真賞審査においては「**変化する時代や社会の中で写真家がいかに対象と自分の関係を独自の表現として可視化しているか**」に注目しているとのこと。数多い受賞者の中では、個人的に古屋誠一氏の『メモワール』のシリーズには特に強い印象を持っているとか。古屋氏の写真は、2024年世界的に有名なパリのポンピドゥーセンターでの個展が決まりました。※2004年さがみはら写真賞受賞

伊藤先生から――

さがみはらのみなさんへ



「写真は誕生して200年になります。写真を携帯やパソコンで見ることが常態化していますが、写真200年の歴史の奥深さと多様性を体感し、新しい世界の見方を身につけてもらえればと思います。写真文化だけでなく、美術館や図書館と連動した新しい文化センターがあちこちにでき

ば市の文化状況も活性化するのではないかと思います。隣の大和市のシリウスやポラリスのようにたくさんの方々が楽しんで学べる場が相模原市には必要に思います。手始めに図書館のスペースを利用した写真集展やプリント展などを積極的に開催してゆくのもいいのではないのでしょうか。」

ちくま学芸文庫 1996年
版元在庫なしなので図書館でどうぞ。



相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
事務局：相模原市文化振興課 TEL 042-769-8202